有利採材について

付知営林署　山口　太
小林貝見

1. はじめに

木材価格が極度に低迷し国有林、民有林を問わず、林業経営の危機感にあふれ、この打開への努力が強く要請されている中で、有利採材、有利販売については、日頃から研修、販売対策委員会等で審議を重ね、貴重な資源をムダなく市場の需要に対応できるよう努力しているところである。しかしながら現場では、まだまだ画一的な採材に走りがちな傾向にある。そこで現場全職員一人ひとりが有利採材への重要性を再認識することはもちろん、用途別需要などもは握することによって、よりきめの細かい採材を目標にして、今年度、取り組んだことを中心に報告する。

2. 内　　容

(1) 一般市場からの関係者をまじえ、採材研修を実施、市場からみた、採材、用途別需要、椪積などを参考に討論を重ねた。

研修結果については次のようにまとめた。

ア　今市場が求めている材は何か、高く売れているのは何か？のアンテナを高く敏感に働らかせ即応できる生産システムを定着させる。

イ　機械的な採材でなく、木をよく見て、その木にあった採材をする。

ウ　元玉が勝負、材積は約3割なのに、材価では約7割を占める。元玉の採材の良否がその木の価値を決めてしまうことを肝に命じよう。などであった。

これらのことを参考に、採材の基本的な考え方として、人工林の場合、柱取りに始まり柱取りに終わることを大前提に採材に取り組む。天然林の場合、良材はできるだけ長材に採材する。適切に打出しをして長材に採材し、極力、短尺採材はさける。林分内容にあった採材をする。（57夏山天然林では立木密度が高く、経級も比較的細かったことから柱適材の生産に努めた。）などの考え方で、造材寸法書を再検討し柔軟性のある採材を実行した。

次表は採材研修販売結果などをもとにした有利採材の優先順位を決め表にしたものであるが、これを基本に採材を実行した。

造材寸法順位表

樹　　種	長　級	順位	適用径級	摘　　要
（天）	10　m	1	40上cm	元玉で通直、良材のもの
ヒ　ノ　キ	8	2	30上	元・中玉で通直材
	5	3	40上	元・中玉で良材（一面節）
	6	4	14～40	元・中玉で通直材（通し柱）
	3	5	13～20	元・中玉で通直材（柱　材）
	4～2		10上	上記以外
（人）	6	1	14～30	22下通し柱・22上大黒柱
ヒ　ノ　キ	3	2	22上	元玉で良材のみ
ス　　ギ	3	3	13～20	元・中玉通直柱適材のみ
サ　ワ　ラ	4	4	4上	上記以外（通直材）
	3～2		4上	〃　　〃

(2)　木曽ヒノキを中心とする貴重材の採材については、目を慣らすことの目的もかね、時々、さし金をあて採材寸法を決定するというように、きめの細かい採材を実行した。

(3)　貯木場との連携を密にして公売の分析結果などをもとに今どんな材が求められているかをは握し生産に努めた。

(4)　委託材、注文材等には積極的に取り組み、国有林材のＰＲに努めると共に、産地直送により山元生産の拡大をはかり間接経費の節減に努めた。

3. 結　　果

林分にあった有利採材、また材価と生産地点について再認識することができ、人工林小丸太等の低価格材の大半を山元販売に切り替えることができたことなど、有利採材の重要性が一層認識され、日常の造材についても、積極的な意見交換がおこなわれ、きめの細かい採材が定着し収入増への意欲が向上した。

この厳しい状勢の中で、国の財産を預かる者として、貴重な資源を有利に採材し販売するという信念で、今後とも現場一丸となって努力してまいりたい。